



TITLE:

花山だより(七月)

AUTHOR(S):

星見山人

CITATION:

星見山人. 花山だより(七月). 天界 1935, 15(173): 440-440

ISSUE DATE:

1935-08-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167087>

RIGHT:

花 山 だ よ り (七月)

夏の瀬戸内海、船上から見る之の國立公園の美はしき風景を世に紹介する意味でか BK では 24 日に大連航路の熱河丸にマイクを据えて、船上よりの放送が行はれました。その時山本臺長は内海の星座を語ると題されて、同船のボートデッキより講話されました。之の放送のため花山にある彗星搜索用望遠鏡を持参されましたが、船上に経緯儀を据えて天體を見たのは蓋し之れが最初でありませう。16 輝に 50 倍を用ひて金星や木星がよく見えました由。併し船が動揺する場合を慮つて望遠鏡のガイドを同行した高城先生が受持つてゐられましたが、殆んど動揺はなかつた由であります。

今月の例会は13日にあり、相憎の悪天氣にて天體觀望は出来ませんでした。が、熱心な會員達約20名參會。山本先生の「平石時光の天文學」の講演があり。故人の偉業を偲びつゝ 21 時散會しました。

6日にミシガン大學教授ルーファス博士夫妻來臺され(八月號口繪參照)、圖書室で暫らくよもやまの話をされました。此の日は神戸の菫部夫人も出席されました。話が終つて正午近く臺長夫妻は同博士夫妻を大津に案内され、雨の湖の景色を愛でつゝ數刻を過ごされし由、尙同日14時より理學部數學教室に於て第1回日本數學物理學會京都支部常會があり、花山からは稻葉先生がヘルクス新星の位置に就いて觀測結果を發表されました。

28日に公文先生は神戸の星見臺へ行かれ、同地三井物産の有志數十名に幻燈使用で天文學全般に亘る講演をされました。講演後色々の質問もあり盛會でありました由。

7日に名古屋市内に小隕星落下し、同地の村上先生より臺長へ報告がありました。比重は7ですから隕鐵であり、山本臺長が東上の途中名古屋驛にて同先生持参の該隕星を觀察されました結果、隕鐵なる事を確かめられました。大さは朝顔の種子位ひの由で、こんなに小さい物が發見されたのは誠に珍しいことと思ひます。

今月からは暑中休暇に入り、月斗生氏休みのため暫らく交代。(星見山人)